

(パブリックコメント用資料)

資料編

可児市学校規模適正化検討委員会

可児市学校規模適正化検討委員会設置要綱
(設置)

第1条 可児市立学校の適正配置及び適正規模について検討し、望ましい学校教育環境の整備に資するため、可児市学校規模適正化検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について調査及び検討を行い、教育委員会に提言を行う。

- (1) 可児市立学校の適正配置及び適正規模に関すること。
- (2) その他学校環境の整備に関し必要なこと。

(委員)

第3条 委員会は、委員10人以内をもって組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから、教育委員会が委嘱し、又は任命する。

- (1) 学識経験者
- (2) 市民公募に応募した者
- (3) 主任児童委員の代表
- (4) 自治会関係者
- (5) 可児市PTA連合会の役員
- (6) 可児市立学校の校長の代表

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱又は任命の日から当該日の属する年度の末日までとし、再任を妨げない。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、委員の互選により定める。

- 2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。
- 3 委員長に事故あるとき又は委員長が欠けたときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、必要に応じて委員長が招集する。ただし、委員の委嘱又は任命後最初の会議は、教育委員会が招集する。

(関係者の出席)

第7条 委員長は、議事に関係ある者の会議への出席を求め、その説明又は意見を聴くことができる。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、教育部教育総務課において行う。

附 則

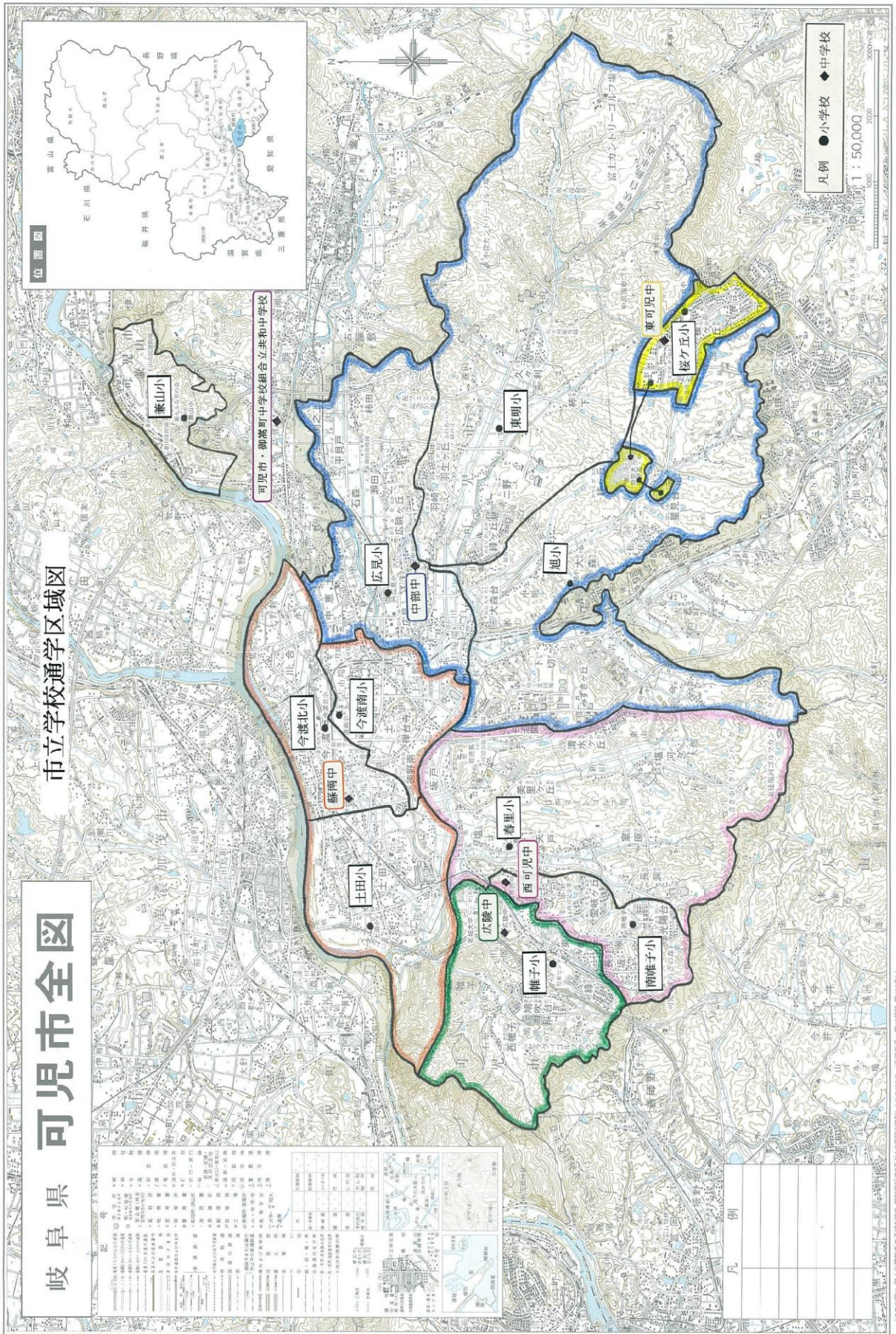
この訓令は、平成23年4月1日から施行する。

平成23年3月23日公表

可児市学校規模適正化検討委員会 委員名簿

(敬称略)

氏 名	役 職 等	備考
益 子 典 文	学識経験者（岐阜大学教授）	委員長
坂 崎 尚 子	市民公募	
門 脇 栄 子	市民公募	
奥 村 幸 生	自治会関係者（自治連合会役員）	
澤 村 祐 子	主任児童委員の代表	
加 納 賢 治	P T A連合会役員（小学校）	
小 林 淳	P T A連合会役員（中学校）	
加木屋 三貴雄	小学校長の代表	
松 岡 秀 明	中学校長の代表	委員長職務代理者



資 - 3

学校規模等に関するアンケート調査

◇アンケートの対象者

可児市立小中学校の教職員、小学校5年生と中学校2年生の保護者、
中学校2年生の生徒

◇調査期間：平成23年7月4日から7月15日

◇回収率

区 分		対象数 (人)	回答数 (人)	回収率 (%)
教職員	小学校	308	276	89.6
	中学校	173	169	97.7
保護者	小学校	1002	783	78.1
	中学校	943	611	64.8
生 徒		943	889	94.3

アンケート調査の内容

<質問1>：現在、通学（勤務）している小中学校の学級数についてどう思われますか。

- 1)今のままで良い 2)多い 3)少ない 4)どちらとも思わない

<質問2>：小中学校の1学年あたりの学級数は何学級が良いと思われますか。

- 1)1学級 2)2学級 3)3学級 4)4学級 5)5学級 6)6学級 7)7学級以上

<質問3>：上記2の理由として、下記の中からあてはまるものを3つ選んでください。

- 1)切磋琢磨しながら力を伸ばせる
- 2)社会性や協調性を養える
- 3)クラス替えにより、いじめなどを防止できる
- 4)学校行事が盛り上がり活気がでる
- 5)多様な学習形態をとることができる
- 6)多くの先生と接することができる
- 7)一人ひとりの活躍や登場の機会が多い
- 8)一人ひとりへきめ細かな指導ができる
- 9)児童生徒及び教職員との人間関係が深まる
- 10)特別教室の使用に制約を受けない
- 11) その他

アンケート調査の分析

<質問1> 現在、通学(勤務)している小中学校の学級数についてどう思われますか。

図-1 小学校小規模校(1学年1学級)

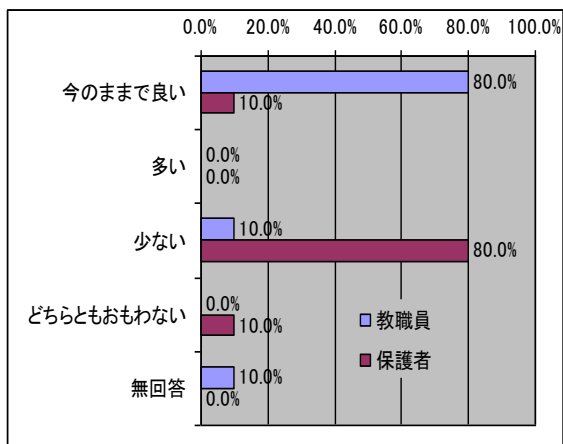


図-2 中学校小規模校(1学年1~3学級)

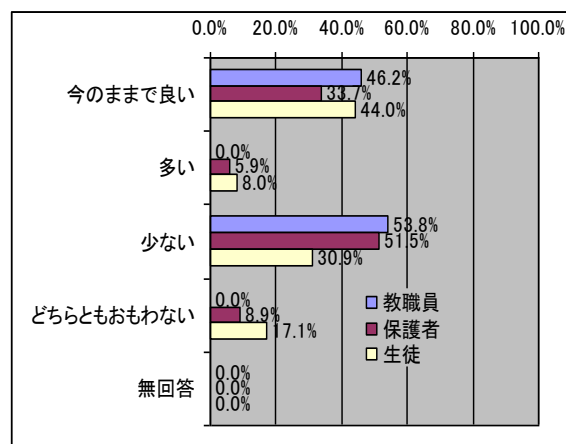


図-3 小学校中規模校(1学年2~3学級)

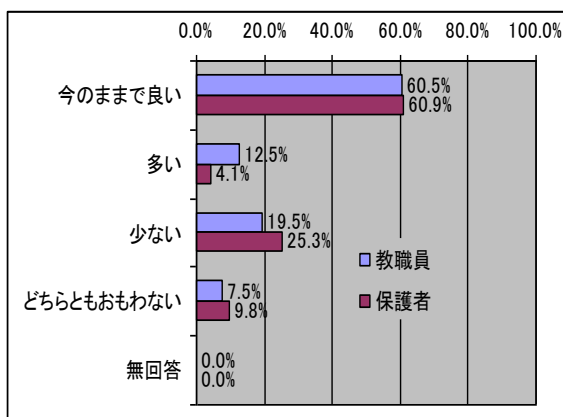


図-4 中学校中規模校(1学年4~6学級)

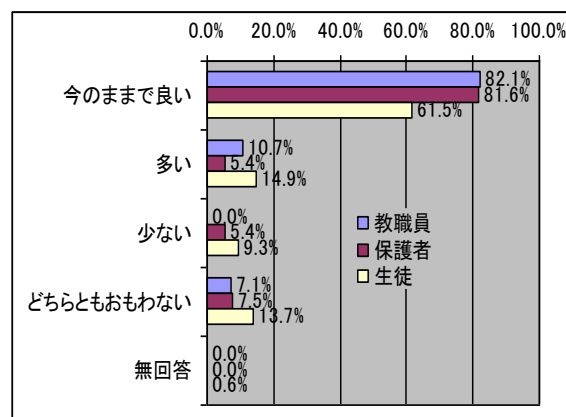


図-5 小学校大規模校(1学年4学級以上)

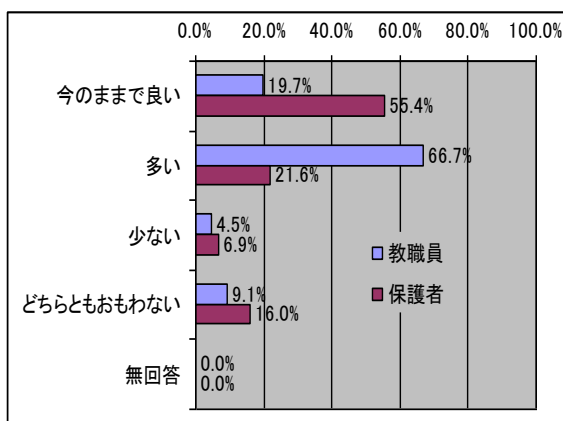
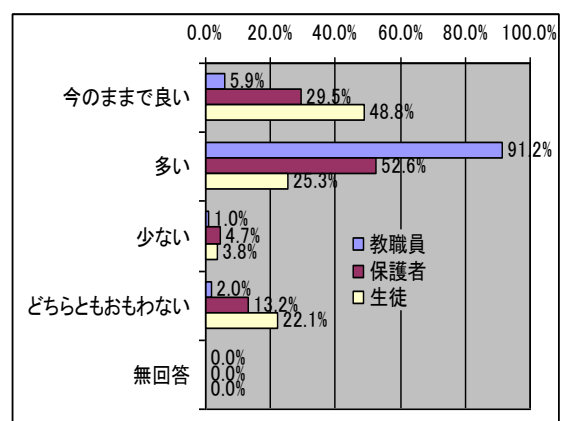


図-6 中学校大規模校(1学年7学級以上)



<質問2> 小中学校の1学年あたりの学級数は何学級が良いと思われますか。

表-2 教職員(小学校)

	学校名	現学級数	1学級		2学級		3学級		4学級		5学級		6学級		7学級以上		その他	総計	
			数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合			
小学校	今渡南	3		0.0%	1	3.3%	20	66.7%	8	26.7%	1	3.3%		0.0%		0.0%		0.0%	30
	土田	3		0.0%	3	10.0%	24	80.0%	3	10.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	30
	帷子	3		0.0%	1	4.5%	21	95.5%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	22
	春里	3		0.0%	2	10.0%	15	75.0%	3	15.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	20
	東明	2		0.0%	6	27.3%	15	68.2%	1	4.5%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	22
	旭	3		0.0%	7	25.0%	15	53.6%	5	17.9%	1	3.6%		0.0%		0.0%		0.0%	28
	広見	4		0.0%	7	22.6%	17	54.8%	6	19.4%	1	3.2%		0.0%		0.0%		0.0%	31
	南帷子	2		0.0%	4	20.0%	10	50.0%	5	25.0%	1	5.0%		0.0%		0.0%		0.0%	20
	桜ヶ丘	3		0.0%	2	7.1%	13	46.4%	12	42.9%		0.0%		0.0%	1	3.6%		0.0%	28
	今渡北	4		0.0%	4	11.4%	24	68.6%	6	17.1%	1	2.9%		0.0%		0.0%		0.0%	35
	兼山	1	1	10.0%	5	50.0%	1	10.0%	1	10.0%		0.0%	1	10.0%		0.0%	1	10.0%	10
	小学校全体	1		0.4%	42	15.2%	175	63.4%	50	18.1%	5	1.8%	1	0.4%	1	0.4%	1	0.4%	276

表-3 教職員(中学校)

	学校名	現学級数	1学級		2学級		3学級		4学級		5学級		6学級		7学級以上		その他	総計	
			数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合			
中学校	蘇南	8		0.0%		0.0%	3	5.7%	31	58.5%	12	22.6%	7	13.2%		0.0%		0.0%	53
	中部	7		0.0%		0.0%	1	2.0%	30	61.2%	4	8.2%	11	22.4%	3	6.1%		0.0%	49
	西可児	5		0.0%		0.0%	1	3.6%	19	67.9%	7	25.0%	1	3.6%		0.0%		0.0%	28
	東可児	3		0.0%		0.0%	5	23.8%	13	61.9%	3	14.3%		0.0%		0.0%		0.0%	21
	広陵	2		0.0%		0.0%	2	11.1%	12	66.7%	4	22.2%		0.0%		0.0%		0.0%	18
	中学校全体	0		0.0%	0	0.0%	12	7.1%	105	62.1%	30	17.8%	19	11.2%	3	1.8%	0	0.0%	169

= 文部科学省設定の適正規模
 = 1位
 = 2位
 = 3位

表－4 保護者(小学校)

	学校名	現学級数	1学級		2学級		3学級		4学級		5学級		6学級		7学級以上		その他	総計	
			人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合			
小学校	今渡南	3		0.0%		0.0%	38	64.4%	19	32.2%	1	1.7%		0.0%		0.0%	1	1.7%	59
	土田	3		0.0%		0.0%	44	69.8%	17	27.0%	2	3.2%		0.0%		0.0%		0.0%	63
	帷子	3		0.0%	1	1.3%	54	69.2%	15	19.2%	7	9.0%	1	1.3%		0.0%		0.0%	78
	春里	3		0.0%	1	1.2%	58	71.6%	18	22.2%	3	3.7%	1	1.2%		0.0%		0.0%	81
	東明	2		0.0%	21	42.9%	18	36.7%	9	18.4%		0.0%		0.0%	1	2.0%		0.0%	49
	旭	3		0.0%	2	2.8%	24	33.3%	43	59.7%	3	4.2%		0.0%		0.0%		0.0%	72
	広見	4		0.0%	8	6.0%	29	21.8%	72	54.1%	20	15.0%	1	0.8%		0.0%	3	2.3%	133
	南帷子	2		0.0%	3	6.0%	39	78.0%	5	10.0%	2	4.0%	1	2.0%		0.0%		0.0%	50
	桜ヶ丘	3		0.0%	1	1.1%	48	53.3%	31	34.4%	8	8.9%	1	1.1%		0.0%	1	1.1%	90
	今渡北	4		0.0%	4	4.1%	21	21.4%	52	53.1%	20	20.4%	1	1.0%		0.0%		0.0%	98
	兼山	1	3	30.0%	3	30.0%	4	40.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	10
	小学校全体	3		0.4%	44	5.6%	377	48.1%	281	35.9%	66	8.4%	6	0.8%	1	0.1%	5	0.6%	783

表－5 保護者(中学校)

	学校名	現学級数	1学級		2学級		3学級		4学級		5学級		6学級		7学級以上		その他	総計	
			人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合			
中学校	蘇南	8	1	0.5%		0.0%	6	3.0%	38	19.2%	55	27.8%	51	25.8%	47	23.7%		0.0%	198
	中部	7		0.0%		0.0%	4	2.4%	19	11.5%	43	26.1%	36	21.8%	62	37.6%	1	0.6%	165
	西可児	5	1	0.7%		0.0%	7	4.8%	25	17.0%	91	61.9%	19	12.9%	2	1.4%	2	1.4%	147
	東可児	3		0.0%		0.0%	19	31.7%	15	25.0%	20	33.3%	3	5.0%		0.0%	3	5.0%	60
	広陵	2		0.0%		0.0%	17	41.5%	17	41.5%	5	12.2%	2	4.9%		0.0%		0.0%	41
	中学校全体	2		0.3%	0	0.0%	53	8.7%	114	18.7%	214	35.0%	111	18.2%	111	18.2%	6	1.0%	611

= 文部科学省設定の適正規模
 = 1位
 = 2位
 = 3位

表-6 生徒

	学校名	現学級数	1学級		2学級		3学級		4学級		5学級		6学級		7学級以上		その他		総計
			人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
中学校	蘇南	8	2	0.7%	7	2.4%	10	3.5%	35	12.1%	35	12.1%	70	24.2%	129	44.6%	1	0.3%	289
	中部	7	2	0.8%	3	1.1%	8	3.0%	9	3.4%	17	6.4%	47	17.8%	176	66.7%		0.0%	264
	西可児	5	5	3.1%		0.0%	5	3.1%	34	21.1%	89	55.3%	19	11.8%	9	5.6%		0.0%	161
	東可児	3	1	0.9%	5	4.7%	42	39.6%	19	17.9%	21	19.8%	5	4.7%	13	12.3%		0.0%	106
	広陵	2		0.0%	30	43.5%	19	27.5%	13	18.8%	4	5.8%	1	1.4%	2	2.9%		0.0%	69
	中学校全体	10	1.1%	45	5.1%	84	9.4%	110	12.4%	166	18.7%	142	16.0%	329	37.0%	1	0.1%	889	

= 文部科学省設定の適正規模
 = 1位
 = 2位
 = 3位

＜質問3＞ 上記2の理由として、下記の中からあてはまるものを3つ選んでください。

- | |
|---|
| 1)切磋琢磨しながら力を伸ばせる
2)社会性や協調性を養える
3)クラス替えにより、いじめなどを防止できる
4)学校行事が盛り上がり活気がでる
5)多様な学習形態をとることができる
6)多くの先生と接することができる
7)一人ひとりの活躍や登場の機会が多い
8)一人ひとりへきめ細かな指導ができる
9)児童生徒及び教職員との人間関係が深まる
10)特別教室の使用に制約を受けない
11) その他 |
|---|

表—7 小学校

現在の学級数	グループ	維持又は変化を希望する際に重視しているもの（上位3位）			
		教職員		保護者	
4 学級	維持	切磋琢磨	19.4%	社会性・協調性	20.2%
		活気	19.4%	活気	19.9%
		社会性・協調性	16.7%	切磋琢磨	15.6%
		いじめ防止	16.7%		
	変化	施設使用制限	14.8%	きめ細やかな指導	20.2%
		きめ細やかな指導	13.0%	人間関係	13.1%
人間関係		13.0%	社会性・協調性	11.8%	
3 学級	維持	いじめ防止	17.3%	社会性・協調性	18.2%
		切磋琢磨	16.7%	きめ細やかな指導	14.8%
		社会性・協調性	15.7%	活気	10.3%
	変化	きめ細やかな指導	21.3%	きめ細やかな指導	17.5%
		いじめ防止	14.0%	社会性・協調性	12.8%
		多くの先生と接する機会	12.7%	活気	10.2%
2 学級	維持	人間関係	16.7%	きめ細やかな指導	19.4%
		社会性・協調性	13.3%	人間関係	19.4%
		いじめ防止	13.3%	社会性・協調性	16.7%
		きめ細やかな指導	13.3%		
		施設使用制限	13.3%		
	変化	社会性・協調性	20.8%	きめ細やかな指導	16.0%
		多くの先生と接する機会	18.8%	活気	15.6%
		切磋琢磨	15.6%	社会性・協調性	14.2%
				いじめ防止	14.2%
1 学級	維持	きめ細やかな指導	33.3%	きめ細やかな指導	33.3%
		人間関係	33.3%	社会性・協調性	11.1%
		施設使用制限	33.3%	活気	11.1%
				多様な学習形態	11.1%
				活躍の機会が多い	11.1%
				人間関係	11.1%
	変化	切磋琢磨	18.5%	切磋琢磨	23.8%
		活躍の機会が多い	14.8%	社会性・協調性	19.0%
		活気	11.1%	いじめ防止	19.0%
		きめ細やかな指導	11.1%	活気	19.0%
		施設使用制限	11.1%		

表—8 中学校

現在の学級数	グループ	維持又は変化を希望する際に重視しているもの（上位3位）			
		教職員		保護者	
7学級以上	維持	切磋琢磨	22.2%	活気	15.6%
		社会性・協調性	22.2%	きめ細やかな指導	13.5%
		多くの先生と接する機会	22.2%	切磋琢磨	12.8%
	変化	きめ細やかな指導	15.5%	きめ細やかな指導	16.5%
		施設使用制限	15.2%	社会性・協調性	14.4%
		活躍の機会が多い	11.8%	活気	10.8%
5学級	維持	いじめ防止	19.0%	活気	15.8%
		活気	19.0%	社会性・協調性	15.4%
		多くの先生と接する機会	19.0%	切磋琢磨	11.7%
	変化	活気	14.3%	きめ細やかな指導	15.5%
		切磋琢磨	12.7%	社会性・協調性	13.7%
		活躍の機会が多い	11.1%	活気	11.9%
3学級	維持	社会性・協調性	20.0%	活気	19.3%
		切磋琢磨	13.3%	社会性・協調性	17.5%
		多様な学習形態	13.3%	多様な学習形態	14.0%
		活躍の機会が多い	13.3%		
		きめ細やかな指導	13.3%		
	変化	人間関係	13.3%		
		社会性・協調性	25.0%	切磋琢磨	17.1%
		活気	25.0%	活気	17.1%
		切磋琢磨	16.7%	社会性・協調性	16.3%
2学級	維持	なし		なし	
	変化	いじめ防止	22.2%	活気	20.3%
		切磋琢磨	16.7%	社会性・協調性	15.4%
		社会性・協調性	16.7%	切磋琢磨	13.8%
	活気	16.7%	多くの先生と接する機会	13.8%	

回答いただいた教職員と保護者が所属している学校の、実際の学級数別に「今の学級数を変化させたい理由」「今の学級数をそのまま維持したい理由」を集計し、割合が高かった回答（上位3位）を整理しました。

■ 可見市の財政状況の見通し

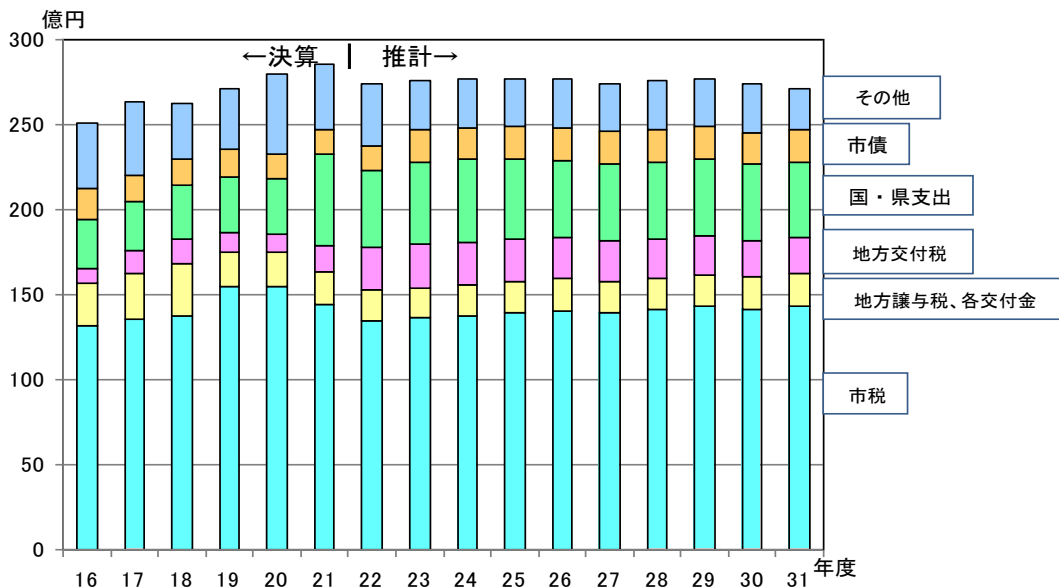
(総合政策課作成「可見市の財政状況と新しい取り組み 平成23年6月 Ver 3」より)

○ 普通会計

(1) 歳入

平成21年度までは、市税の増加などを背景に増加傾向にありました。今後は歳入総額が275億円程度で横ばいとなり、増加の要素がない状況です

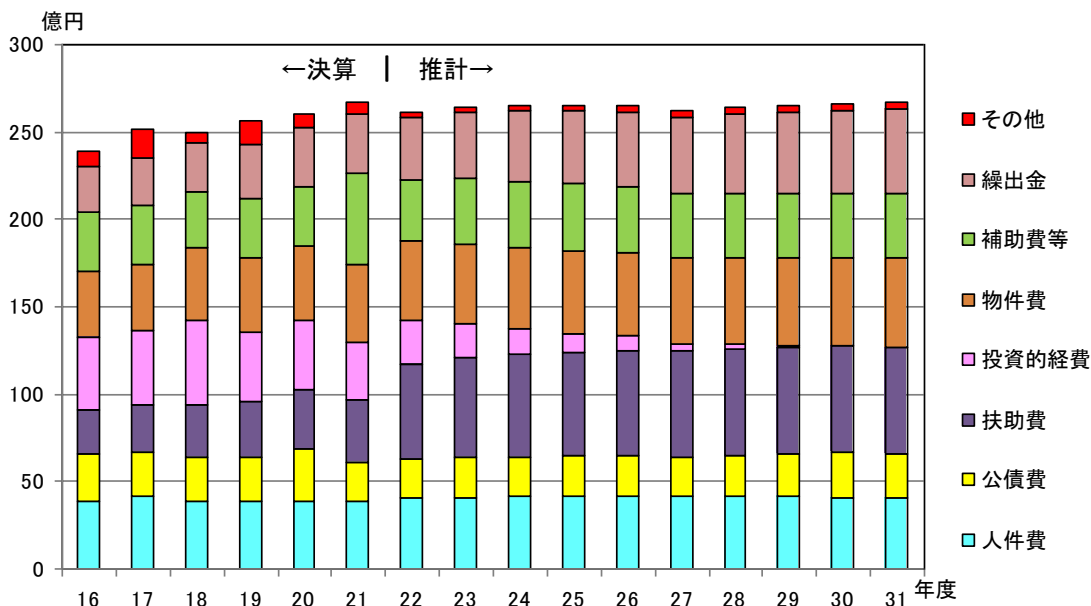
図-7



(2) 歳出 (全体)

平成21年度までは、歳出総額は増加傾向にありました。今後は、歳入総額が横ばいで推移し、扶助費が増加するため、生活道路や公園、教育施設の建設や改修などの投資的経費のためのお金が大幅に少なくなります。

図-8

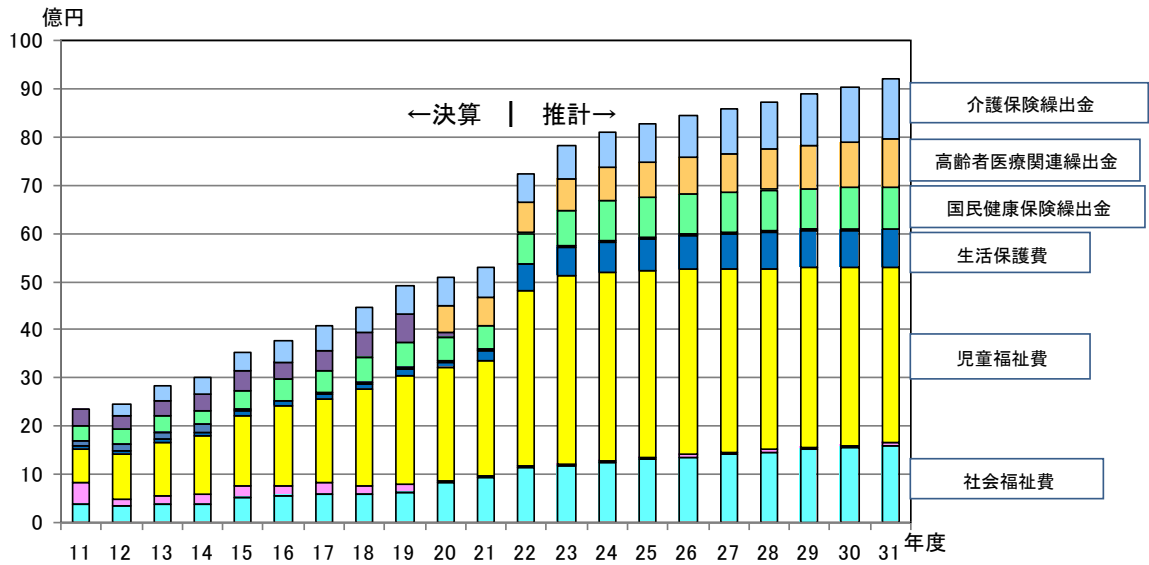


※投資的経費には、普通建設事業費と災害復旧事業費が含まれます。補助費等には、一部事務組合への負担金や各種補助金などが含まれます。

(3) 歳出（社会保障に関する経費）

平成11年度から21年度の10年間で約30億円増加してきました。市全体の予算額から考えると大変大きな増加額といえます。高齢化の進展により、これらの経費はますます増加することが見込まれます。

図-9



(4) 歳出（投資的経費）

生活道路や公園、教育施設の建設や改修などの投資的経費は、平成11年度から21年度の10年間で約49億円減少してきました。（文化センターを除く。）歳入の大幅な減少のなかで、扶助費、繰出金、その他の経費が伸びることにより、投資的経費が大幅に減少し、平成30年度以降はゼロとすることが見込まれます。

図-10

